

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク通信

05

VOL.



2010. 7 西の湖のヨシ原

夏の日差しを浴び、勢いよく成長するヨシ。3mを超す背丈になったヨシ原を歩いてみると、まさに緑のジャングルに迷い込んだようです。



前回号から「びわ湖を知る」でラムサール条約にこだわっています。そこで、ラムサール条約とは？

イランの首都テヘランの北にラムサールという町があり、1971年にここで「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択され、この地名にちなんでラムサール条約と呼ばれているそうです。条約は国際的に重要な湿地を保全することを目的とした条約で、その湿地に依存する特有の動植物の保護も対象とのこと、日本国内では現在37箇所が登録されているそうです。

ヨシの
まめ
ちしき

びわ湖を知る ■ 問題

<問題> 西の湖がラムサール条約に追加登録された年はいつですか。

- ① 1998年
- ② 2000年
- ③ 2005年
- ④ 2008年

びわ湖は国定公園にも指定され、ヨシ原は水鳥にとって大切な生息地となっている事は言うまでもありません。全国的に見てもびわ湖は、名高い渡り鳥の越冬地になっているそうです。やっぱりすごいですね。

ヨシ原に生息する野鳥たち

【はじめに】

びわ湖に象徴される滋賀県は県境をとり巻く山地の森林、山麓部の里山、近江平野の水田地帯、琵琶湖周辺の湿地や水面など、多様な自然環境が広がっています。そこには山に棲む鳥、平地に棲む鳥、水辺に棲む鳥など、環境にあった種類の野鳥が棲みついています。

一方、翼を使って自由に飛び回ることの出来る野鳥だが繁殖地と越冬地との間を季節ごとに移動する「渡り」の習性があるため、同じ環境でもそこで生活する野鳥は季節ごとに変化しています。

野鳥の季節移動をタイプ分けしてみると次のようになります。

留鳥：県内で一年中見られる種類。スズメ・ヒヨドリ・カイツブリなど

夏鳥：春に渡来して繁殖、秋に南方の越冬地に渡って行く。ツバメ・ホトギスなど

冬鳥：秋に北方から渡ってきて越冬、春に帰って行く。ツグミ・コハクチョウなど

旅鳥：北方の繁殖地から南方の越冬地に渡る途中、春と秋に短期間滞在する。シギ類など

迷鳥：渡りのコースを間違えて県内に迷い込んでしまったもの

初夏の野鳥たちを見てみましょう。

新緑の森からはキビタキ、オオルリ、クロツグミなどさえずりも姿も美しい森の妖精たちが見られます。水田地帯ではヒバリ、ケリ、シラサギ類などが餌を探しています。また、湖岸のヨシ原からはオオヨシキリの騒がしいさえずり声が絶えることがありません。琵琶湖の水面に多数浮かんでいたカモたちは北の繁殖地へ帰ってしまい何もいません。

季節によって、環境によって、野鳥は生活する場所を変えています。

野鳥関係者が長年に渡って調べた結果、滋賀県内で観察された野鳥は324種類が記録されています。

【ヨシ原で生活する野鳥】

琵琶湖には湖を取り巻くように湖畔林やヨシ原が広がっています。ここは水辺と水田地帯の間にある湿地帯で、変化に富んだ環境のため魚類や水棲昆虫、両生類、爬虫類、小動物など多種多様な生き物たちが棲む環境です。当然これらをエサにしている野鳥たちも集まっています。

この豊かなヨシ原を野鳥たちはどのように利用しているのでしょうか。

① ヨシ原に巣を作って繁殖している鳥

春から夏にかけてヨシ原の中に巣を作り子育てする野鳥はオオヨシキリ、ヨシゴイ、チュウヒなどですが、彼らは広いヨシ原に棲み付きヨシ原と運命を共にしています。

※※※

滋賀県野鳥の会は、昭和44年に創設され、現在、約150名が所属されています。「びわ湖やこれを取りまく周囲の山野に生息し、こよなく自然の情緒をかもしだしてくれる野鳥を永遠に保護する」ことをかかげて、県内を中心に毎月、山野に野鳥を探しに出かける探鳥会活動や学校等への講演活動など、広く野鳥保護・自然保護活動を展開されています。



『滋賀県の鳥カイツブリの親子』



『ヨシ原でさえずるオオヨシキリ』

特集 2ページ

② ヨシ原付近の水面でいつも生活している鳥

水面で生活するカイツブリ、バン、オオバンなどは巣作り、子育て、エサ場、隠れ家などに利用するためヨシ原に密着して生活しています。



『ヨシ原付近でヒナを育てているバン』

③ 夜のネグラにしている鳥

7月から10月頃、大きなヨシ原には夕方になると野鳥の群れが上空を飛び交いヨシ原に飛び込むのが見られます。ツバメ、ムクドリ、スズメの集団ネグラです。仲間が集まって夜を過ごす集団ネグラは数千羽の大群も珍しくありません。



『暖かいヨシ原で越冬するオオジュリン』

④ 越冬場所として冬を過ごす小鳥

秋に北方から渡ってきたオオジュリン、カシラダカ、ホオアカなどの冬鳥にとって、エサがあって寒さをしのげる場所としてヨシ原は絶好の冬越し環境となっています。

⑤ 冬期タカの仲間がやってくる

ヨシ原には冬期に小鳥類が多く集まるため、この小鳥類を捕らえてエサにするチュウヒ、オオタカ、チョウゲンボウ、ハヤブサなど肉食タカ類が多くやってきます。



『ヨシ原の上を飛びながら狩りをするチュウヒ』

⑥ ヨシ原付近の水面で越冬するカモ類

コガモ、オカヨシガモ、ハシビロガモなど植物質のエサを好むカモ類も冬期のヨシ原付近には多く集まっています。

⑦ 春と秋、渡り鳥の中継地

北へ向かう鳥、南へ向かう旅鳥が短期間滞在し、休息や栄養補給をして、次の目的地へ旅立っていきます。

このようにヨシ原は一年中食べ物が豊富で温かく、飛び込めば外的から身を守ることが出来る安全地帯となり、野鳥にとってかけがえのない生息地となっています。

【ヨシ原を利用する人と野鳥】

ヨシ原は生き物の楽園であると共に、ヨシを利用する人にとっても貴重な素材となっています。また、琵琶湖の原風景でもあり、水質浄化、富栄養化防止などの効用も期待されています。

ところが琵琶湖総合開発によってヨシ原が少なくなったり、ヨシの生育不良が発生してきたため、近年各地で冬期にヨシ原を刈り取り野焼きするヨシ再生活動が行われていますが、そこを棲家とする野鳥にとっては一大事です。

餌場はなくなり、ネグラや隠れ場所も消えてしまいます。更に春に帰ってきた鳥たちは寄り付く場所もなくビククリしていることでしょう。

そこで野鳥からのお願いですが「冬期のヨシ刈り」では全てのヨシを刈り取ってしまうずに野鳥や小さな生き物たちが生きていくための、手付かずのヨシ原も残しておくをお願いします。

つまり、人間が手を加える環境と、多くの生物が生息できる自然環境とをバランスよく配置することで、ヨシ原に住むすべての生物にとって優しい自然環境を未来に残していけるのではないのでしょうか。

みんなの リエデン

開発グループ～ 佐々木さんより

～私とリエデンとの出会い～

「ReEDEN(リエデン)」のPR活動をしていると「滋賀出身の方ですか？」としばしば質問を受けることがあります。「もちろんです」と答えられたら一番いいのですが、残念ながら私は社内で唯一関東生まれ、関東育ちの滋賀県民2年生です。一瞬気まずい雰囲気になりますが、「では何故ここに…？」と会話が続きるときこそが、リエデンの1ファンであり、商品の開発に携わる私がリエデンの魅力をめいっぱい紹介するチャンスなのです。

私自身、この通信を読んで下さっている皆様と同様「環境」に関心があり、就職活動中は出来る限りそれに携われる仕事がしたいと考えていました。ただどんなに地球にやさしくても、電気的なものの部品や、微生物の研究…苦手な理数と関わることについては続けていく自信が持てず、くすぶっていました。そんな矢先に、たまたま手にした「みずかんだより」(滋賀県立水環境科学館発行)にリエデンプロジェクトの記事が載っていたのを発見し「これしかない！」と思ったのが「私とリエデン」の出会いです。

「地元で自生する素材を、地元の企業で調達、活用し、地元向けの商品として開発、生産、販売する」パッと見は小規模で、地味な感じさえますが、誤解を恐れずに言えば「環境も大事だけれど、まず地元で全てが回っているこの商品が『おもしろい』」と思えたことが、コクヨ工業滋賀に入社を希望する決め手となりました。面接の時の「リエデンやりたい！」という熱い気持ちを酌んでもらえたおかげで私は今、開発グループの一員として働いています。地味で細かい事務作業や、立ちっぱなしで辛い展示会等、華やかではない仕事も沢山ありますが、どんなことをしていても「大好きなリエデン」と繋がっていることを誇りに思っています。私以外のメンバーは滋賀県出身で、リエデンは立ち上げの時から関わっているのだから、思い入れは強いと思います。ただ後から加わったとはいえ、私も惜しみない愛情を注ぎ続けています。そんな話を聞いて頂いたらリエデンもまた別の見え方がしたりしませんか？

この7月7日に新商品「ReEDEN colours (リエデンカラーズ)」を発売。

シリーズの販売エリアは全国に広がり、より多くのファンを獲得するチャンスが巡って来ました。県内外を問わず、私と同じようにリエデンを後から知った人達にも、ますます愛される商品にするべく、今後もリエデンと楽しく関わっていくのが私の目標です。



『 ReEDEN colours 』

メンバーコーナー

「社内エコポイント」で 環境への取り組みを広げています！

昨年からはまった家電や自動車のエコポイント制度が注目されていますが、当社では3年半前の平成18年12月に『エコポイント制度規定』を制定し、構内協力会社を含む全ての従業員（経営層除く）から、廃棄物やCO2の削減、省エネ、グリーン購入、清掃活動、環境リスクの回避など、チーム・個人で取り組んだ環境に関する改善やアイデア提案を対象に、環境への貢献度をエコポイントとして認定、一定の基準に達すると表彰するという取り組みを行っています。

実施件数1件につき2ポイントから最大30ポイントのエコポイントが贈呈（アイデア提案は1ポイント）され、申請をすれば10ポイントで1,000円の賞金と交換することが出来ます（※課税対象）が、貯めるほどお得なシステムになっていて、最高は300ポイントで100,000円にもなります。

獲得したエコポイントは個人別に台帳で集計管理してイントラネットで公開していますので、どれだけ貯まったかを見るのも楽しみのひとつになって、事務局には毎月50~60件のエコ提案が提出され、従業員の環境への関心向上に一役買っています。

今年度中には、そろそろ初の300ポイント獲得者も出てくると期待しています。

編集後記

1ヶ月ぶりに訪れたヨシ原は、まるで様子が変わり、うっそうと茂るヨシの成長力には驚かされました。

旭化成住工の松宮様、貴重な取組みをご紹介いただき有り難うございます。みなさんの職場でも参考にされてはいかがでしょうか。また、滋賀県野鳥の会の岡田様のお話は、考えさせられました。

健全なヨシ原を創り出すヨシ刈りが、場合によっては、生物を脅かすことになっているとは……

でも、手入れを行わなければ生き物の住みかとなるヨシ原は衰退してしまいます。

いつも感じるのですが、人と生き物が共生できるバランスのよい自然を維持していくことが本来の自然保護に繋がるのですね。

現在、ネットワークメンバーは24社となりました。

みなさまのお知り合いの企業、団体様で当ネットワークに賛同していただけたところがありましたらお知らせください。

お知らせ



今年1月の伊庭内湖
ヨシ刈りボランティア
にマ

旭化成住工(株) 本社滋賀工場 松宮様より



休憩所に緑のゴーヤカーテン（総務部）



断熱材の端材で作ったゴミ箱（製造部）

びわ湖を知る ■ 解答

④ 2008年（平成20年10月）

韓国で開催された第10回締約国会議において西の湖が拡大登録されています。